

市長記者会見資料

1 市長発表資料

- ① 大学生向け消費者トラブル防止リーフレットを作成
杏林大学の学生のアイデアを採り入れて周知啓発
- ② 「講演と音楽のつどい」を開催
人権の大切さを考える機会に
- ③ 「自然体験の機会のある場」の認定制度を開始
自然体験活動の場づくりを促進し環境教育を充実
- ④ 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定
地方創生に対する取組みを推進
- ⑤ 「第二回八王子市いきいき長寿川柳大賞」受賞作品を決定
受賞作品10句を含めた厳選100句を掲載した冊子を配布
- ⑥ フラッシュモブでサプライズ広報
学生がダンスで「いちよう祭り」をPR

大学生向け消費者トラブル防止リーフレットを作成

杏林大学の学生のアイデアを採り入れて周知啓発

近年、大学生がマルチ商法やインターネットに関わる消費者トラブルの被害に遭うケースが増えている。そこで、杏林大学三浦ゼミの協力のもと、大学生のアイデアを採り入れた「大学生向け消費者トラブル防止リーフレット」を作成し、学生の意識啓発を図る。

- 1 作成の概要 杏林大学三浦ゼミに所属する2年生 ^{ひやくたけ}百岳 ^{あや}彩さん、^{まじま}真島 ^み美 ^ゆ有さんの協力を得て「大学生向け消費者トラブル被害防止リーフレット」を作成した。

消費者トラブルに巻き込まれやすいタイプかどうかを測る「Yes Noチャート」の危険度チェックやQRコードをスマートフォンで読み込むことで、トラブルの対処法など詳細情報が得られるサイトに誘導するなど、学生ならではのアイデアが盛り込まれている。

さらに南多摩5市（八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市）で協議し、共通の課題となっていた大学生への周知・啓発を行うため、各市に所在する大学にも各市を通じて配布する。

- 2 リーフレット A4判 両面 カラー刷り（別添資料参照）
- 3 作成部数 10,000部
（1校につき100枚配布。校内で学生に直接配布をする際は、リーフレットと同じ内容を印刷したクリアファイルを配布。）
- 4 配布先 大学コンソーシアム八王子に加盟する大学のうち23校及び町田市、日野市、多摩市、稲城市に所在する大学
※配布希望があった大学のみ
- 5 スケジュール 11月中旬以降配布開始

<問い合わせ> 市民部 消費生活センター所長 山崎
主査 河井
電話042-631-5456

「講演と音楽のつどい」を開催

人権の大切さを考える機会に

「講演と音楽のつどい」は、人権の大切さを知っていただくため、17市町村で構成する多摩西人権啓発活動地域ネットワーク協議会が毎年実施している人権啓発イベント。今年度は本市で開催し、ダウン症の書家として活躍されている金澤 翔子^{かなざわしょうこ}さんの書のパフォーマンスと、母である書家の金澤 泰子^{かなざわやすこ}さんによる講演、平成27年度TBSこども音楽コンクール多摩地区大会中学校管楽合奏の部で、優秀賞を受賞した八王子市立横山中学校吹奏楽部による演奏を行う。

記

- 1 日 時 平成27年11月29日（日）開場：午後1時
開演：午後1時30分～4時
- 2 会 場 八王子市芸術文化会館いちようホール 大ホール
- 3 講 演 「ダウン症の娘^こと共に生きて」
講師 書家 金澤 泰子^{かなざわ やすこ}（ダウン症の書家 金澤 翔子^{かなざわしょうこ}さんの母）
※書家 金澤 翔子^{かなざわ しょうこ}さんの揮毫^{きごう}（書のパフォーマンス）を
ステージ上で行います。
- 4 音 楽 八王子市立横山中学校吹奏楽部による演奏
（以上詳細は別添リーフレット参照）

（参 考）

金澤 翔子（かなざわ しょうこ）さんのプロフィール

1985年、東京都目黒区生まれ。5歳から母の師事で書を始める。

2005年、銀座書廊で個展。2009年、鎌倉建長寺、京都建仁寺で個展開催（以後毎年開催）。2011年、奈良東大寺で個展開催。福島に「金澤翔子美術館」を開設。2012年、NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫。2013年、銀座に「銀座金澤翔子美術館」を開設。平泉中尊寺で個展。熊野大社、厳島神社で奉納の揮毫。国体の開会式で揮毫。天皇の御製を揮毫。2015年、国連本部にて日本代表でスピーチ。ニューヨーク・チェコなどで個展。

「自然体験の機会の場」の認定制度を開始

自然体験活動の場づくりを促進し環境教育を充実

自然体験活動を通じて環境保全への理解を深めてもらうことを目的に「体験の機会の場」の認定制度を開始する。本制度は土地・建物の所有者が、その土地等を自然体験活動の場として提供する場合に、都道府県の知事、政令指定都市・中核市の市長から「体験の機会の場」として認定を受けることができるというもの。中核市ならではの取り組みにより環境教育のさらなる充実を図る。

記

- 1 根拠法令 「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」第20条
- 2 本市での活用 平成27年4月1日に中核市へ移行したことに伴う法定権限を活用し、認定に関する制度を構築、平成27年11月1日から開始する。法の規定に基づき教育委員会への協議を経て認定する。
- 3 制度活用のメリット 市民は体験活動の場を利用することで、環境保全等について理解と関心を深めることが可能となる。また、認定事業者等は、自治体の認定を受けることで、市に協力する形で地域貢献をすることができる。
- 4 申請・認定のフロー

体験の機会の場の提供に関する認定構図



八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

地方創生に対する取組みを推進

国が制定した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、本市の人口の現状と将来の展望を踏まえ、今後5年間の目標や施策をまとめた「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことから、これを公表する。

記

1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子

(1) 人口ビジョン 現状分析の結果から、目指すべき将来展望を示す

目指すべき将来展望

- ①平成27年に本市人口の8割を維持
- ②人口構造（年少人口・生産年齢人口、老年人口）の安定化
- ③平成52年までに出生率1.8（国民希望出生率）を達成
- ④平成32年までに若年層の流出を4分の1に抑制

(2) 総合戦略 目標達成のために、本市の特性を活かした対策を示す

ア 総合戦略の基本方針 → 重点ターゲットは「若年層と大学生」

・ まち・ひと・しごとの好循環

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を創るという好循環を生み出すとともに、これを支える「まちづくり」を進める。

・ 交流人口の増加

本市に魅力を感じ、人生の中で本市に居住するという選択肢を考えてもらえるような施策を展開する。

イ 4つの政策軸

- ① ひとづくり 「就労・結婚・出産・子育ての切れ目ない支援」など
- ② しごとづくり 「地域産業の競争力の強化」「新たな産業分野の創出」など
- ③ まちづくり 「中心市街地活性化」「良好な都市環境づくり」など
- ④ 魅力の発信 「本市の特性を活かした地域ブランドの創出」など

ウ 行政裁量の拡大に向けた取組み

- ① 特区（構造改革特区、国家戦略特区）制度の活用
- ② 地方分権の更なる推進
- ③ 都市間連携の推進

2 計画期間

平成27年度から平成31年度までの5年間

＜問い合わせ＞ 都市戦略部 都市戦略課長 立川
電話 042-620-7335

「第二回八王子市いきいき長寿川柳大賞」受賞作品を決定

受賞作品10句を含めた厳選100句を掲載した冊子を配布

本市では、川柳を通じて介護予防や健康の保持・増進に楽しく取り組むきっかけづくりとして、昨年度から「いきいき長寿川柳大賞」を実施している。応募作品のうち、受賞作品10句を含めた厳選100句を掲載した冊子を11月から配布する。

記

1 いきいき長寿川柳大賞の概要

- ① 応募対象者 どなたでも（住所、年齢問わず）
- ② 募集期間 平成27年7月1日（水）～平成27年8月4日（火）
- ③ 結果 445人 849句 応募
- ④ 受賞者及び受賞作品（表のとおり）

氏名	ふりがな	ペンネーム	お住まい (市)	性別	年齢	作品	順位
岡本 由紀子	おかもと ゆきこ	ろまんちっ句	八王子市川口町	女	69	万歩計持てば遠出も苦にならぬ	最優秀賞
杉山 武明	すぎやま たけあき	恩方小町	八王子市下恩方町	男	65	脳トレでへそくりの場所思い出し	優秀賞
竹内 照美	たけうち てるみ	ピコタン	広島県福山市	女	60	卓球で爺は老化を打ち返す	優秀賞
山崎 直子	やまざき なおこ	たかなちゃん	八王子市丹木町	女	-	五輪まで孫と勉強英会話	優秀賞
大窪 哲哉	おおくぼ てつや	ピンコロ願望	八王子市松木	男	76	ジェネリックよりも無薬が安上がり	佳作
高木 一男	たかぎ かずお	最後の趣味	大分県大分市	男	68	お洒落した妻とばったりダンス会	佳作
横尾 伸子	よこお のぶこ	ぴちのお宿	大阪府高槻市	女	45	終活と言いつつ全く逝く気なし	佳作
磯川 加代子	いそかわ かよこ	あいちゃん	八王子市長房町	女	68	ボランティアこれぞ私のポケ防止	佳作
相原 節子	あいはら せつこ	ひまわり	八王子市元八王子町	女	79	慣れ住んだ地域で共に老いを生く	佳作
渡邊 富雄	わたなべ とみお	死にそこない富	八王子市元横山町	男	101	よく噛めば長生きできる俺を見ろ	特別賞

2 冊子「第二回八王子市いきいき長寿川柳大賞 ～おでかけは健康長寿への懸け橋～」の配布

- ① 配布開始日 平成27年11月2日（月）～
- ② 配布場所 高齢者いきいき課・各事務所・各市民センター
- ③ 内容 受賞作品を掲載 川柳をきっかけに高齢者の方に次の情報を提供
 - ・ 「介護予防コラム」の掲載（「おでかけで認知症予防を」「表情筋から老化予防」など）
 - ・ 「ふれあい・いきいきサロン」事業の『常設サロン』の紹介

<問い合わせ> 福祉部 高齢者いきいき課長 元木

電話042-620-7243

フラッシュモブでサプライズ広報

学生がダンスで「いちよう祭り」をPR

11月21・22日に開催される「いちよう祭り」に先立ち、同イベントについて学生がフラッシュモブによるサプライズ広報を行う。

これは、学生のアイデアを市に提案していただく「八王子学生発表会」において、昨年12月に杏林大学から「八王子市独自の新たなご当地広報手段の提案」を受け、学生自らが企画・運営して実施するものである。

記

1 フラッシュモブとは 通りすがりの歩行者を装い、突如ダンスなどのパフォーマンスを行い、特定の広報を行うことを目的としたサプライズ行為。

2 実施主体 杏林大学久野ゼミナール広報班

指導教員…久野^{くの}新^{あらた} 准教授

学 生…青木^{あおき}萌^{もえ}さん、大塚^{おおつか}秀俊^{ひでとし}さん、上田^{うえた}悠^{ゆう}き

さん、坂本^{さかもと}季生^{としき}さん、三浦^{みうら}啓太^{けいた}さん、山縣^{やまがた}

美穂^{みほ}さん（すべて3年生。五十音順）

3 実施概要

(1) 参加人数 約80名（杏林大学ダンスチーム「スレイブ トゥ ザ リズム」と、いちよう祭り参加団体）

(2) その他 動画サイトにも掲載し、会場にいた人以外への間接的な広報も行う。

※フラッシュモブの主旨から、実施日時は公表いたしません。

<問い合わせ>

フラッシュモブ：都市戦略部 広報課長 中部 042-620-7228

いちよう祭り：市民活動推進部 協働推進課長 岩田 042-620-7401